

大阪市立 長原 小学校



住所 〒547-0013 大阪市平野区长吉長原東 3-10-9
連絡先 ☎ 06-6708-0105 ☎ 06-6799-0401
校長 市場 達朗 **開校** 昭和 45 年
URL <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e751732>

運営に関する計画

【現状と課題】

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿とは、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することである。

これまでの「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、子どもたちの思考を深める「発問」を重視していくことや、子どもたち一人一人の多様性と向き合いながら一つのチームとしての学びを高めていくことが重要である。誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、一人一人の児童が生涯にわたって能動的に学び続けることをめざしていく必要がある。

本校の学校教育目標は、「子どもも大人もいきいきしている学校」であり、めざす子どもの姿は、「自分も人も大切にしている子ども」、「自分で考え、行動する子ども」、「自分からチャレンジする子ども」である。

こうした「めざす子どもの姿」を常に意識しながら、教科指導や生活指導など、学校生活のあらゆる場面で、その実現に向けて教育活動を進めていく。そして、「めざす学校の姿」は「学校と家庭と地域がひとつになって『自己肯定感』をもつ子どもを育てる教育活動を推進する」ことである。「自己肯定感」や「自己有用感」をもつことはとても大切な課題である。「授業を開く」や「地域に開く」など、学校が常にオープンに家庭や地域等との連携・協働した教育を推進することは必須である。常に子どもを真ん中にして、学校と家庭と地域をつなぐことができる学校運営に取り組んでいく。

運営に関する計画

【中期目標】

【安全・安心な教育の推進】

- ① 令和7年度末の学校アンケート調査の「学校の生活は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ② 令和7年度末の学校アンケート調査の「自分の命は自分が守っている」項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ③ 令和7年度末の学校アンケート調査の「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ④ 令和7年度末の学校アンケート調査の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 令和7年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ② 令和7年度末の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より0.5ポイント向上させる。 ※全国平均を1とした時の割合

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 令和7年度末の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ② 令和7年度末の学校アンケート調査の「学校は学年だよりや学校だより、ホームページ等でよく知らせている」の項目について、肯定的に回答するサポーターの割合を90%以上にする。
- ③ 令和7年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

令和4年度 「みんながつくる みんなの学校 長原小」の教育

<大阪市教育振興基本計画（4年間 R4～R7）の最重要目標>

1「安全・安心な教育の推進」 2「未来を切り拓く学力・体力の向上」 3「学びを支える教育環境の充実」

学校教育目標 **子どもも大人もいきいきしている学校**

キーワード 「笑顔」で「元気」に「楽しく」

めざす子どもの姿

自分も人も大切にしている子ども ……「思いやり」「自信」「自分が好き」「自尊感情」

自分で考えて、行動する子ども ……「自分らしく」「主体的」「自分の言葉で語る」

自分からチャレンジする子ども ……「夢」「目標」「あきらめない」「やりがい」

めざす大人の姿

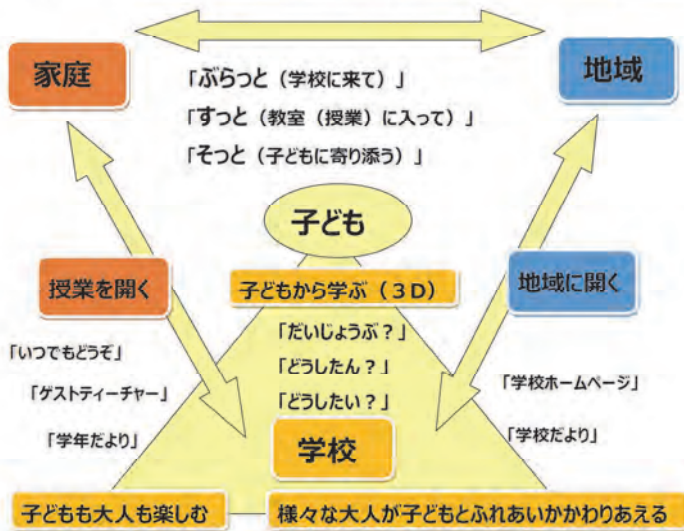
子どもから学ぶ大人 ……「3つのD」で子どもを受け止め、信じて任せる大人

すべての子どもを見守る大人 ……子どもを多方面から見つめ、違いを認め合える大人

できないことは人の力を活用する大人 ……何事も抱え込まず、チームで動く大人

めざす学校の姿

学校・家庭・地域がひとつになって「自己肯定感」をもつ子どもを育てる教育活動を推進する。



R3 年度「全国学力・学習状況調査」

国語	算数	平均正答率 (%)
51	59	

●結果と概要

・国語は平均正答率 51%で、大阪市平均より 11%低い。語彙に関する問題に対する回答率が低く、漢字学習についての課題を残した。引き続き、要旨をまとめたり、自分の考えを書いたりする力をつける必要がある。
 ・算数は平均正答率 59.0%で大阪市平均より 10%低い。全ての領域で大阪市平均を下回っており、特に図形の領域においては 16%下回っていた。今後も基礎基本の定着に粘り強く取り組むことが必要と考える。

●取組の成果と課題

[国語] 言語力や論理的思考を目指し、自分の考えを持ち、意見を述べる、書く、まとめる活動を継続して行った。また、習熟度別少人数学習やチームティーチングでの学習形態を維持し、漢字検定も行い、語彙の学習に力を入れている。
 [算数] 今後も引き続き習熟度少人数学習やチームティーチングを継続して行い、自分の考えを伝え合う言語活動を算数科においても取り組み、引き続き図形等の意味を解釈して説明する力、論理的に記述する力を身に付けさせていきたい。

R3 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	合計 得点 (点)
男子	14.35	20.47	30.53	38.29	45.25	9.28	147.06	22.71	52.25
女子	13.83	19.56	38.56	41.67	34.18	9.63	145.72	12.11	54.18

●結果と概要

男子は上体起こし・反復横とび・20mシャトルラン・50m走・ソフトボール投げにおいて、大阪市の記録を上回り、体力合計点も大阪市の記録を上回った。女子は上体起こし・長座体前屈・反復横とび・50m走・立ち幅とびにおいて、全国、大阪市の記録を上回り、体力合計点も全国、大阪市の記録を上回る結果であった。男子は、長座体前屈・立ち幅とびにおいて全国、大阪市の記録を下回った。女子は、ソフトボール投げ・20mシャトルランにおいて全国、大阪市の記録を下回った。

●取組の成果と課題

学校全体で跳躍力をつけるための取り組みを数年前から続けてきている。立ち幅とびの記録について、取り組みを始める前と比べると約10cmアップしている。この結果から継続して取り組んできたことで成果として表れたと考える。今後の取り組むべき課題としては、引き続き、体育の授業の中でより多くの時間目標をもって体を動かせるような授業展開の工夫を図っていくとともに、学校全体での体力・運動能力の向上に向けての体育的行事等の取り組みを継続的に行っていく。さらに、地域や家庭にも体育的行事の実施や外遊びを啓発していくなど、家庭、地域との連携を図りながら、運動に対する意欲づけをおこなっていく。

学校の特徴

長原ガーデン



学習園の整備を行い、地域の方々とふれ合える、長原ガーデンを作りました。春にはチューリップやアネモネ、夏はひまわり、秋にはコスモスと、季節ごとに色とりどりの花が咲きます。また、花の隣には田んぼがあり、その横には季節ごとの野菜が栽培されています。子ども達とともに、地域の方々にもお手伝いいただき、種まきや苗植え、収穫等を行っています。植物の栽培を行うことで、心豊かな子どもの育成を図っています。

読書活動

本年度も読書活動の充実を目指し、取り組みを進めています。年間読書量を低学年、中学年、高学年ごとに目標を設定し、読書活動がより一層活発に行われるよう、ワークルームや図書室の整備に取り組んでいます。



また、全校児童で取り組む「ひらちゃん読書ノート」の活用や図書委員会による図書館開放や読書啓発活動、平野図書館のボランティアさんによる読み聞かせ、毎週金曜日の朝は「本につかる日」(朝読書)なども行っています。

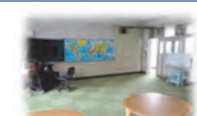


さらに、毎週水曜日には15分休みと昼休み、毎週火曜日には9:30~16:30まで図書室を開放し、自由読書や貸出・返却を行うなど、読書量増加に向けて取り組んでいます。図書館の開放時間の拡大にも取り組んでいます。

ワークルーム

余裕教室を活用して、低・中・高学年の教室に隣接して活動室「ワークルーム」を設置しています。

カーペットを敷いた部屋には、視聴覚機器や書架、サークルテーブル、移動式ミニホワイトボードなどを設置し、本来の教室に加え、児童が「ひとりで学びを深める」「友だちとともに考えをまとめる」「学んだことを発表し合いひろげる」場としての機能を持たせ、子どもの思考力や判断力の育成に努めています。



また、絵本や物語以外にも、調べ学習に使う本なども設置し、休憩時間などにも自由に調べ学習や読書ができる場として活用しています。

平野支援学校との交流

平野支援学校と連携し、両校の子ども達の様々な交流を深めるとともに、障がいに対する理解を深め、互いの違いを認め合い、命を大切に思う思いのある豊かな心身の育成に努めています。



各学期に1回程度の学年間の授業を通しての交流活動を中心に、本校児童主催の「長原ふれあいひろば」など交流活動を実施しています。

さらに、より日常的な自然な形での交流を目指し、「ふれあいウェンズデー」として、水曜日の昼休みの時間に両校の児童が交流する取り組みも、年間に10回程度実施しています。

校長先生からのメッセージ

本校のスローガンは「みんながつくる みんなの学校 長原小」そして、「みんな」とは「自分」です。「子ども」「サポーター(保護者)」「教職員」「地域」など、学校にかかわるすべての人のことです。「子どもにとっては、自分が通う学校を自分がつくる」「サポーターにとっては、自分の子どもが通う学校を自分がつくる」「教職員にとっては、自分が働く学校を自分がつくる」「地域にとっては、地域の宝である子どもが通う地域の学校を自分がつくる」「子どもも大人もいきいきしている学校」をめざして、教職員はひとつになって学校運営を進めていきます。これから子どもたちのために、ともに学校をつくっていきましょう。

校長 市場 達朗